ジュニアミュージアム

「『野口英世』を読んで」

国神小6年
山田 こまち さん

私は「野口英世」という本を読みました。数年後にお札が新しくなる、というニュースを見ました。そして今のお札の人物がどんな人だったのか気になり、この本を選びました。

この本は、野口英世の人生を書いた本です。英世は小さい時に、左手に大きなヤケドを負い、左手が使えなくなってしまいました。それが原因でイジメにもあいました。そんな時に、お母さんが「おめは頭がいい。学校でも一等頭がいい。おめは誰さも負げねぇ。決して。」と英世を勇気づけました。そのおかげで、英世の成績は一等。先生のかわりに勉強を教えるようになりました。

英世はその後、医術開業試験を受けます。ですが、幼い時にケガをした左手の影響で、正確な打診ができないとわかり、恩師の血脇先生のすすめで、左手の手術をしました。手術のおかげで左手は少し動くようになりました。そして合格に十年を要す、と言われている医師開業試験で、わずか一年で一発合格した天才です。

その後英世は、細菌学者となり世界各国をめぐり、たくさんの研究をしました。アフリカで研究していた黄熱病に感せんしてしまい51才で亡くなりました。

私がこの本を読んで思ったことは、人はたくさんの人に支えられて生活しているんだな。と思いました。英世も家族をはじめ、恩師やまわりの仲間、奥さんに支えられていました。そして人は努力とあきらめない心が大切なんだな。と思いました。

人々を助けるために研究を重ねていましたが、その病気に感せんしてしまい亡くなってしまったのは、とても残念だな。と思いました。そして世界の人々のために、研究をつらぬいた野口英世だから、お札の顔になっているんだな。と思いました。

(評) 日常生活から、野口英世について関心を持ち、自分の思いや考えもつづることができて素晴らしいです。

皆野小5年
逸見 カレラ さん

(評) 一画一画お手本をよく見てていねいに書くことができました。

三沢小3年
関根 雅姫(みやび) さん

(評) はじめてのはらい。集中して書けました。

「ばくだん だいばくはつ!」

皆野小1年
若林 美香(みか) さん

(評) 液体粘土を、のびのびと画用紙に広げていく姿がとてもいきいきとしていました。その過程から「ばくだんに見える!」と想像し、自分が思い描いた世界を表現することができました。

「芝桜」

皆野中3年
駒井 理子(りこ) さん

(本人のコメント) 武甲山を立体的にかくのが難しかったです。明暗を意識してかくようにしました。